（様式１）

平成２４年度試験研究課題設定のための要試験研究問題提案・回答書

（整理番号） ００３	**提案機関名**	神奈川県環境農政局水・緑部森林再生課

要望問題名

ボタン材の被害状況調査について

要望問題の内容　【　背景、内容、対象地域及び規模（面積、数量等）　】

木材の横断面に不規則な形をした着色部分が表れ被害が激しい時はお互いに連絡して、牡丹の花びら状や星状になるのでいわゆる“ボタン材”や“ほし材”と呼ばれる。ボタン材は成長過程において、物理的な力が加わって発生するものであり、①生枝の枝打ちによるもの②枯枝の落枝によるもの③外部の原因によるものの主に３つの原因が考えられる。ボタン材と呼ばれる材については箱根県行造林および丹沢県有林27林班県営林の一部で被害が確認されている。価格面では、ボタン材はクサレと呼ばれることもあり、いかに他の条件（目込み、無節）が良くても最下等にランクされる。それらは建築用材としての利用が敬遠されるために間伐材などの木材生産活動が停滞する原因となっている。しかし、被害材の分布については、把握されておらず原因についても調査されていない。よって、林分毎の被害状況の調査を行った上で、計画的な被害材等の搬出促進を講じる必要があると考えられることから、これらの調査の実施について要望したい。

解決希望年限	①　年以内　　②２～３年以内　　③４～５年以内　　④５～１０年以内
対応を希望する研究機関名	①農業技術センター　②畜産技術所　③水産技術センター ④自然環境保全センター
備　考	

※　ここから下の欄は、回答者が記入してください。

回答機関名	自然環境保全センター	**担当部所**	研究連携課

対応区分	①実施 ②実施中 ③継続検討 ④実施済 ⑤調査指導対応 ⑥現地対応 ⑦実施不可
試験研究課題名　（①、②、④の場合）	

対応の内容等

いわゆるボタン材の発生原因として、ご指摘のうち“①の生枝や枝隆という枝の付け根部分の枝打ちによって枝打ち後の巻き込みが遅れ変色するものが多いと推定され、枝打ちの技術的な問題が主因であり、普及による現地対応が適当と思われます。ただし丹沢では、過去の雪害の影響など③の外部の影響の可能性もあり、林分により原因が異なる可能性があります。必要により森林再生部と調整し対応したいと存じます。

解決予定年限	①１年以内　②２～３年以内　③４～５年以内　④５～１０年以内
備　考	